

文化遺産の視察を通じて札幌の近代史を学び直す ——「第四一回全道勤労者文学歴史探訪」に参加して

正木 浩 司

1. コロナ禍で縮小開催となった第四一回

一般社団法人北海道労働文化協会（会長 神谷忠孝・北海道大学名誉教授）（以下、労文協）は二〇二〇年九月二十六日、「第四一回全道勤労者文学歴史探訪」（以下、文学歴史探訪）を開催した。秋晴れの穏やかな天候のもと、道内から二七人が参加した。

労文協主催の文学歴史探訪は、第三六回までは「文学散歩」の名称で、年一回程度のペースで長年続けられてきた現地視察事業である。毎回、視察先とテーマを定め、史跡や歴史的遺構、博物館・美術館などの文教施設、自然景勝地などを訪れる。参加者は会員などから募集し、貸切バスで一泊二日ないし二泊三日の日程で旅をするというのが通例である。

主催団体の関係者によると、第四一回も通例に

従い、当初は十勝方面への一泊二日日程の視察を企画し、一定の段階まで準備を進めてもいたが、二〇二〇年二月頃から道内でも深刻化した新型コロナウイルス感染症の拡大により、初夏の段階で当初の企画内容の変更を余儀なくされ、結果として、一日日程（午前九時～午後五時）で札幌市内の視察を行う縮小開催となった。

とはいえ、足下の札幌市の歴史をあらためて学ぶことが目的とされた第四一回は、「さっぽろ文化遺産の再発見」をメインテーマに、市内の「北海道遺産」^①に選定された施設や、「さっぽろ・ふるさと文化百選」^②（以下、文化百選）に指定されたスポットなどを数多く訪問することが企画された。足下ゆえ現地までの移動に長い時間を要しないこともあって、一日日程ながら充実した内容となった。

この第四一回文学歴史探訪に、当研究所からは、所内設置の「北海道近現代史研究会」（主査 押

谷一・酪農学園大学教授）の活動の一環として、同研究会のメンバー四人のうち、筆者を含め二人が参加した。当日の様子について以下に概要を報告する。

2. 札幌にもあったタコ部屋労働

集合場所のJR札幌駅前を貸切バスで午前九時に出発し、参加者一行が最初に向かったのは南区の藻岩山方面。この山の東側の斜面の一角に、現在は北海道電力（北電）が管理する水力発電所の一つ「藻岩発電所」（ダム水路式水力発電所、出力一万二六〇〇kW、一九三六年九月運転開始）^③がある。同発電所および隣接する「藻岩浄水場」の建設のプロセスには、タコ部屋労働あるいはタコ労働と呼ばれる人権無視の強制労働の歴史が秘められている。

発電所に着くまでの間、移動中のバス内で、こ

<付表> 主な視察先

	史跡・施設名	所在地
1	藻岩発電所・浄水場	南区南33条西11丁目3
2	藻岩犠牲者の碑	中央区南30条西10丁目 山鼻河川敷公園内
3	石山緑地	南区石山78
4	ぼすとかん (旧石山郵便局)	南区石山2条3丁目1-26
5	石山振興会館 (旧石切山駅)	南区石山1条3丁目1-30
6	ホテルノースシティ － 昼食・特別講演	中央区南9条西1丁目1
7	北海道鉄道技術館	東区北5条東13丁目 JR北海道苗穂工場内
8	妙見山本龍寺	東区北14条東15丁目42
9	大友光園	東区北13条東16丁目4-10
10	札幌村郷土記念館	東区北13条東16丁目

れから向かう施設がどのような歴史を持つ場所なのかを説明する車内講話が行われた。講師は「札幌郷土を掘る会」という市民団体の小松豊さん。藻岩発電所が建造された昭和初期（一九三四年着工、三六年完成）の時代背景と、そこで強制労働の犠牲となった日本人・朝鮮人の生活・労働実態について、当時の状況を記録した資料も用いながら説明がなされた。建設には四〇〇〇人を超える様々な素性の労働者が従事し、この中には、国内のどこかから言葉巧みに札幌に連れてこられた日本人や朝鮮人なども含まれていたとされる。彼らは過酷な環境のもとで強制的に働かされ、時には

虐待などの非人道的な扱いも受けたという。率直に、札幌にもタコ部屋労働があったという歴史的事実を知らされ、大きな衝撃を受けた。

発電所を眼前に臨む緑地帯でバスを降りた一行は、その外観を眺めながら若干の説明を受けた後、すぐさま発電所の東側、石山通（国道二三〇号）を若干北上し、山鼻河川敷公園（中央区南三〇条西一〇丁目）へ移動。この公園内の一角に「藻岩犠牲者の碑」がある。碑に刻まれた説明文によると、碑は「北電藻岩発電所建設工事犠牲者の碑を建てる会」が一九九四年六月一日に建立したものであり、藻岩発電所・浄水場建設の強制労働で犠牲となった推定八〇人を超える日本人・朝鮮人を追悼するとともに、強制労働の事実を後世に伝えることを目的とするとされている。「建てる会」には労文協の関係者も深く関わっていたとのこと、歴史を後世に伝える上での意思あるいは問題意識の重要性を再確認させられた。



藻岩犠牲者の碑

3. 開拓時代の都市形成を支えた札幌軟石

藻岩発電所を去った一行は南区をさらに南へ。文化百選の一つ「伝説・おいらん淵」を藻南橋から眺め、程なく辿り着いたのは「石山緑地」であった。ここは元々は「札幌軟石」の名で知られる溶結凝灰岩の採掘場跡であり、これを市が彫刻家集団の協力のもと再整備したのが現在の姿である。採掘の痕跡を残す山の斜面も露わな緑地の敷地内には、数々の彫刻作品のほか、古代ギリシアの劇場を想起させるような大規模な彫刻空間もある。現地に着くと、ここでのガイド役である佐藤俊

義さんと合流。「札幌軟石ネットワーク」という市民団体で事務局長を務める佐藤さんからは、自作の紙芝居を用いながら、四万年前の支笏火山の噴火に遡る札幌軟石の生成の経緯、明治期に札幌の開発を進める開拓使が軟石に目をつけた理由、軟石を建築材に利用する際の加工方法などについて広範で詳細な説明がなされた。

札幌軟石を全面に活用して建築された建物は今も札幌市内の各所にいくつかが現存し、中には文化百選に選定されたものもある。代表的な例としては「旧札幌控訴院」（現・札幌市資料館、中央区大通西一三丁目）や「カトリック北一条教会（中央区北一条東六丁目）などが挙げられよう。「札幌軟石」自体も二〇一八年に北海道遺産（二〇一八年第三回選定分、第六一号）に選定されている。



石山緑地



ほすとかん（旧石山郵便局）

その後、引き続き佐藤さんによるガイドを受けながら、緑地から程近い場所にある「ほすとかん」という施設へ移動。ここも、文化百選に選ばれている、札幌軟石製の建築物の一つであり、元々は「旧石山郵便局」の建物であった。現在は内部をリフォームし、市民有志により物販とカフェの営業が行われている。

また、「ほすとかん」の向かい側に位置する「石山振興会館」は、元々は、一九六九（昭和四四）年に廃線となった定山溪鉄道の「石切山駅」（一九一七年開業）の旧駅舎である。同鉄道の駅舎と

しては唯一現存し、腰壁の部分に札幌軟石が使われている。

4. 札幌開拓の祖・大友亀太郎の事績を学ぶ

石山緑地とその近隣施設で札幌軟石について学んだ一行は、昼食休憩をとるために中央区のホテルノースシティへ移動。昼食後には、同じ会場で「札幌の文化財―「さつぼろ」ふるさと文化百選」の中から札幌創成期をめぐる旅」と題する特別講演が行われた。講師は、市の文化財課に所属する

文化財保護指導員の山川伸也さん。講演では、「大友堀」の開削の主導者として名を残す大友亀太郎や、「北海道開拓の父」とも称される開拓判官の島義勇を中心に、彼ら札幌開拓の祖たちの業績などが説明された。

特別講演の聴講を終え、午後二時にホテルを出発した一行は、次の目的地への道中に位置する文化百選の選定スポットを車内から眺めながら、東区へ移動。多くの鉄道ファンや親子連れで賑わう「北海道鉄道技術館」の見学を足早に済ませた後、この日最後の訪問先へと向かった。

最後の訪問先である「札幌村郷土記念館」は、前回の特別講演でも取り上げられた札幌開拓の祖の一人、大友亀太郎の役宅跡に位置する資料館である。大友亀太郎の開拓の事績のほか、亀太郎がその礎を築き、かつて現在の東区に一九五五（昭和三〇）年まで存在した自治体「札幌村」の住民生活・農耕・歴史に関する様々な資料・史料を展示し、これらを後世に伝えていくことを使命として、一九七六（昭和五一）年に創設された。

大友亀太郎の事績や関係史跡などに関しては、市の文化財等への指定がすでに相当進んでおり、「大友堀跡」は文化百選に、記念館の立地する「大友亀太郎役宅跡」は札幌市の文化財（史跡、一七八七年指定）に、記念館展示の「札幌村玉葱関係資料」および「大友亀太郎関係史料」は同文化財（有形文化財、一九八七年指定）に、これらを含む「大友亀太郎の事績と大友堀遺構」は北海道遺産（二



本龍寺・妙見堂

○一八年第三回選定分、第五九号)にそれぞれ選定されている。

記念館そのものの設立経緯や現在の運営体制・事業などについては、本誌(二〇二〇年五月号)に筆者による視察レポートを一度掲載しているが、今回の訪問では、記念館の近隣に残る大友亀太郎関係の史跡等について知見を深めることができた。

まず、山田治仁館長の案内で、記念館の斜向かいにある「妙見山本龍寺」へ。この寺は、亀太郎自身が寺敷地内の「妙見堂」の建設に関わり、札



本龍寺・幕吏大友翁史蹟

幌最古の寺とされる。「妙見堂」は文化百選の指定(第三四号)を受けている。あわせて、同寺には、亀太郎が自らの守護仏として所持した妙見菩薩像や、亀太郎自身の筆による掛軸などが所蔵されるとともに、扉の一角には「幕吏大友翁史蹟」の碑が置かれるなど、現在にも受け継がれるつながりの深さが見て取れる。

続いて、記念館から徒歩数分の場所に位置する「大友公園」へ移動。ここはかつての大友堀の終着点の跡地を都市公園として整備したところである。大友堀は豊平川の支流の一つから取水し、旧伏古川に注いだ全長約四^キの水路であったが、後に一部は創成川として整備され、一部は埋め立てられ、今日に至っている。公園の入口付近に設置された看板の説明文によると、同公園は一九六七年に開設され、現在の姿になったのは一九九四年の再整備以降とのことである。

公園の視察後、一行はあらためて記念館を訪れ、



大友公園

館関係者(山田館長、玉井晶子事務局長)の案内を受けながら、館内の展示物・史料を見学した。最後には館敷地内の「大友亀太郎像」を囲んでの記念撮影を行って、帰路についた。

本文ではカバーしきれなかったが、移動途中の車内から遠目に視察した文化百選の選定スポットも多数あり、地図や文献からの情報を見るだけでは味わえない現地視察の意義を再認識させられた。

コロナ禍で当初企画が縮小され、今回の文学歴史探訪は足下の札幌史を学ぶ小さな旅であったはずだが、終わってみれば、充実した歴史の学習の

機会となっていたことに気づかされる。こうした企画が今後も継続的に実施されていくことを期待したい。

なお、本稿で扱った第四一回文学歴史探訪については、すでに主催団体である労文協の会報『労文化』第二八五号(二〇二〇年一月一日発行)に詳細なレポートおよび関係記事が掲載されており、あわせて参照していただくと幸いである。

【注】

(1) 「北海道遺産」は、選定主体である「NPO法人北海道遺産協議会」のウェブサイトによると、「北海道の豊かな自然、北海道に生きてきた人々の歴史や文化、生活、産業など、各分野」の、「次の世代へ引き継ぎたい有形・無形の財産の中から」、「道民参加によって選ばれた」北海道民全体の宝物」と説明されている。

二〇二一年一月現在の選定件数は、第一回選定分二五件(二〇〇一年一〇月二二日)、第二回選定分二七件(二〇〇四年一〇月二二日)、第三回選定分一五件(二〇一八年一月一日)、計六七件である。

このうち札幌市に関係するものは、「道内各地」の扱いのもの(二〇件)を除くと、以下の七件。

すなわち、第六号「北海道大学札幌農学校第二農場」、第一五号「路面電車」(函館市とともに)、第三三三号「開拓使時代の洋風建築」、第三四号「札幌苗穂地区の工場・記念館群」、第五九号「大友亀太郎の事績と大友堀遺構」、第六〇号「パシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)」、第六一号「札幌軟石」。

(2) さっぽろ・ふるさと文化百選」は、札幌市役所のウェブサイトの説明によると、「昭和六三年

に札幌市創建一二〇年を記念し、北国の生活の息吹きと開拓の労苦を伝える身近な文化遺産を再発見し、市民自らの手でこれを守り、後世に伝えていくことを目的として、市内の建物四六件、遺跡二六件、街並み一九件、用具五件、まつり・行事など四件の計一〇〇点を選定したとされている。

(3) 藻岩発電所の基本情報は、北海道電力のウェブサイトに掲載情報による。

(4) 北海道鉄道技術館は、JR北海道の苗穂工場の敷地内にある鉄道関係の資料館である。北海道鉄道技術の歴史と文化を後世に伝えることなどを目的に、JR北海道の発足した一九八七(昭和六二年)二月に開設された。館内外には、機関車等の実物や車両の運転台をはじめ、数多くの北海道の鉄道に関する資料が展示されている。入場無料。開館日が毎月第二・第四土曜日のみと限定されている。

なお、「JR苗穂工場」は文化百選(第三五号)に、鉄道技術館を含む「札幌苗穂地区の工場・記念館群」は北海道遺産(二〇〇四年第二回選定分、第三四号)にそれぞれ選定されている。

【参考文献・資料】

北海道労働文化協会事務局「第四一回全道勤労者文学歴史探訪記 さっぽろ文化遺産の再発見」(『労文化』第二八五号三〜八頁所収) 一般社団法人北海道労働文化協会、二〇二〇年一月

正木浩司「大友亀太郎の事績と札幌村の生活史を伝える―札幌村郷土記念館を訪ねて」(『北海道自治研究』第六一六号二六〜三一頁所収) 公益社団

法人北海道地方自治研究所、二〇二〇年五月

【参照ウェブサイト】

一般財団法人JR北海道文化財団「北海道鉄道技術館」

<http://www.jrh-zaidan.or.jp/business/page01.html>

札幌市南区役所「藻岩犠牲者の碑」

<https://www.city.sapporo.jp/minami/shibumi/>

<http://www.city.sapporo.jp/minami/shibumi/chiku0102.html>

札幌市役所「さっぽろ・ふるさと文化百選」

<http://www.city.sapporo.jp/shimin/bunkazai/furusatobunka.html>

札幌軟石情報発信サイト

<https://sapporonanseki.jimdofree.com/>

日蓮宗ポータルサイト「妙見山本龍寺」

<https://temple.nichiren.or.jp/9021005-honyuji/>

ほすとかん再生プロジェクト

<https://www.postokan.com/>

北海道遺産

<https://www.hokkaidoisansan.org/>

北海道電力(ほくでん)「水力発電所」

https://www.hepco.co.jp/energy/water_power/index.html

よつこNSAPPRO「石山緑地」

https://www.sapporo.travel/spot/facility/ishiyama_green_space/

最終閲覧は、二〇二一年一月一五日。

※

へまきき こうじ・公益社団法人北海道地方自治研究所研究員